

病理検体取扱の注意とお願い

本資料は病理受託事業部へ材料を発送される際の注意事項を記載しています。

内容を参考いただきますようお願いいたします。

取り扱う検体の種類

- ・ 湿固定検体（固定液の種類； 10%中性緩衝ホルマリン、4%PFA、ブアン等）
 - 固定液に浸漬させた検体（臓器、細胞、植物、昆虫 etc）です。
 - 輸送は常温（5月～10月は冷蔵輸送：保冷剤を入れること。高温になると過固定となるため）

- ・ ブロック
 - ・ 凍結ブロック
 - 検体を専用包埋材を用いて急速凍結させたブロックです。
 - マイナス80℃（“冷凍”輸送指定）での移送が必要です。
 - 輸送に十分な量のドライアイスを準備して、保冷容器（発砲スチロール箱）に梱包して発送してください。

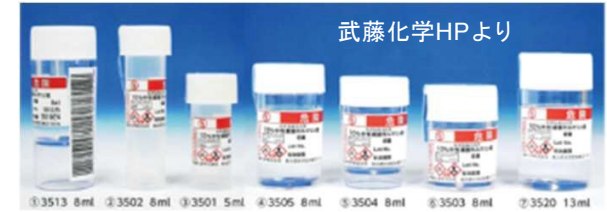
 - ・ パラフィン包埋ブロック
 - 検体をパラフィンで包埋したブロックです。
 - 輸送は常温（5月～10月は冷蔵輸送：保冷剤を入れること。高温になると過固定となるため。高温になるとパラフィンが溶解してしまいます）

取り扱う検体の種類

- ・ スライド標本
 - ・ 未染色スライド
 - パラフィン切片スライド
 - パラフィン切片を貼付したスライド
 - 輸送は冷蔵（保冷剤を入れること）
 - 凍結切片スライド
 - 凍結切片を貼付したスライド
 - 輸送は冷凍（ドライアイスを入れること）
 - ・ 染色済みスライド
 - 輸送は常温で遮光としてください。

容器について

- ・ マイクロチューブや遠沈管、試料用広口容器、ヒストパックの利用を指定する。以下参考例です。
 - 武藤化学：空容器、各種ホルマリン充填済みで発売
 - ・ 5ml, 8ml, 25ml, 30ml, 35ml, 40ml, 50ml, 100ml, 150ml と多彩
https://www.mutokagaku.com/products_search/reagent/pathological_solvents/formalin_neutral
 - 市販遠沈管：基本規格は同じです。15ml, 50ml 容量
 - 組織の大きさよりひと回り以上余裕のある経口の大きさの容器を選ぶようにしてください。解剖直後の臓器は柔らかく、容器の口が小さくても中に押し込めることができちゃうので注意。
 - 固定検体に対して10倍以上の固定液が入る容器を選択してください。
 - 重要；当社から容器・固定液を提供することは違法行為※になるので出来ません。
(※：利益供与、毒劇物取締法)
- ・ 破損や液漏れ防止のため、下記の容器は使用しないでください。
 - 必ず有機溶剤、危険物の輸送に耐える容器で発送してください。
 - 例：入口が狭い容器（検体を取り出せなくなる）、不透明な容器（中身が見えない）、空瓶（特にガラスは破損しやすい）、弁当箱・タッパ容器・ペットボトル、チャック付きビニール袋（液漏れしやすい）



武藤化学HPより



遠沈管



サンプルチューブ



ヒストパック



固定液について

- ・ 湿臓器受けでは、容器の口までフルに固定液等が入っていることを確認して発送ください。空間があると、乾燥、輸送時の振動による検体の破損等が発生します。（次ページ図1）
 - 専用容器以外のマイクロチューブや遠沈管、広口容器をご利用の場合は、必ずパラフィルムにより厳重に液漏れを防止していることを確認ください。
 - キャップが確実に閉まっていることを確認してください。
 - ヒストパックの場合、製品能書の専用シーラーで圧着してください。
 - 万一の液漏れに備えて容器をビニール袋に入れて二重もしくは三重で包装して下さい。 次ページ図2
- ・ 固定液の量
 - 固定する臓器（個体）の10倍量以上の量で固定してください。



容器上部に空間無いことを確認

固定液が「多め十分量」に入っていることを確認
組織の大きさの10~20倍量

固定液について

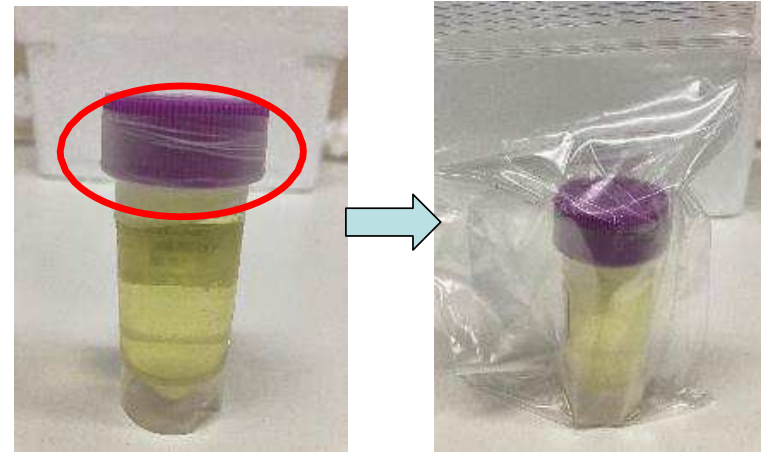
図1



空気が入っている

空気を抜く

図2



キャップをしっかり
閉め、パラフィルム
を巻く

二重三重に袋で包
装する

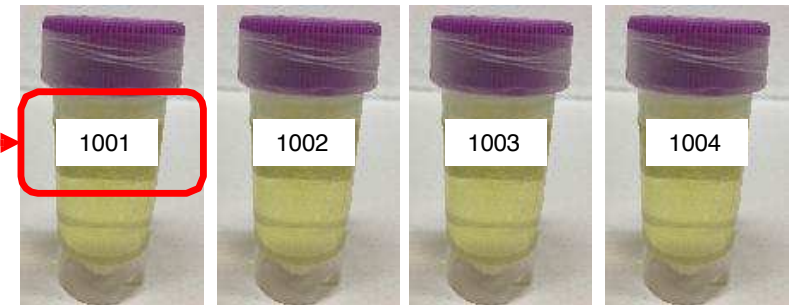
固定時の注意点

- ・ 実質臓器、大型組織について
 - 固定不足や自己融解を防ぐため、必要に応じて割面を入れて固定してください。
 - 標本作製する部位を避けて割を入れてください。
- ・ 腸管など筒状の組織について
 - 粘膜面は自己融解しやすいため速やかに固定液を注入するなどしてしっかり固定してください。
- ・ 固定液の注入や灌流固定の必要な組織
 - 肺など空気量の多い組織は、固定液の注入や灌流固定を行ってください。
- ・ 組織の変形防止
 - 皮膚や開いた腸管などは、組織の丸まりを防ぐため、表皮側/粘膜面を上にして平板にピン止めしてください。
- ・ 内容物（食物残渣、血液）などの多い組織
 - 腸管内容物や心臓内の血液は組織を傷つけない程度で除いてください。

検体の識別作業のお願い

- ・ 検体の提出に際して以下をお願いします。
 - 各検体に識別ID（検体名）を明記してください。識別IDは英数字20文字以内、日本語が1文字でも入る場合10文字以内としてください。これを超える文字数はお受けできません。
 - ・ マジック等は有機溶剤で消えてしまう可能性があります。
 - ・ 印字シール等を利用いただくことが望ましいです。ただし、凍結検体ではシールが脱落する場合があります。
 - ・ 手書きの場合は「0（ゼロ）」と「0（オー）」、「1」と「1（エル）」、「9」と「6」の識別ができるようにしてください。
 - 「検体リスト」を準備ください。
 - ・ 識別IDを同じ内容を記載した検体リスト（デジタルデータ：EXCEL等）を準備ください。
 - ・ **弊社で準備しているフォーマット**もありますので、ご要望ください。
 - デジタルデータには、連番、識別IDを記入してください。
 - 検体名と検体リスト、検体数が一致していることを確認ください。

連番	検体名	カ セ ッ ト 及 ビ ス									
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	1001	1	0	0	1						
2	1002	1	0	0	2						
3	1003	1	0	0	3						
4	1004	1	0	0	4						
5											



材料を輸送していただく場合（梱包例）

図3



緩衝材を入れて検体が箱の中で動かないようにする



緩衝材で箱を保護する

図4



検体に直接保冷剤が触れていると検体が凍ってしまうため緩衝材などを介して保冷剤を入れるように注意。また、保冷剤をたくさん入れすぎても箱内の温度が下がりすぎて検体が凍るので注意。

材料の梱包方法例

図5

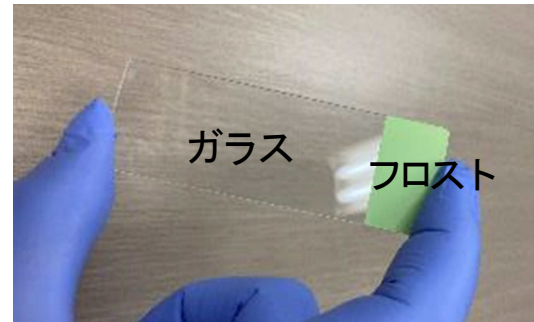


このとき必要により保冷剤、ドライアイス等を入れてください。

材料の受け取り方法：スライドの取り扱い



パウダーフリーの手袋をし、スライド外周を使ってスライドを持ちます。
決してガラスの部分に触れてはいけません。



フロスト部分は掴んで問題ありませんが、文字が薄くなってしまうことがあるのであまり触れないようにしてください



スライドBoxの溝に合わせて一枚ずつスライドを梱包します。

スライドBoxの端にあたる部分にはスライドをなるべく入れず間をあけていれる方が良いです。